

II 特別連載 II

科学技術振興機構『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第328回

さくらサイエンス・ハイスクールプログラム第3陣

中南米、アジア、島しょ国7カ国から高校生が来日

科学技術振興機構(JST)は、「さくらサイエンス・ハイスクールプログラム」の第3陣としてブラジル、チリ、カザフスタン、キルギスタン、パラオ、ペルー、タイの7カ国から高校生と引率者、計36名を招き、1週間にわたる交流プログラムを実施した。今回のグループは多様な地域の国々で編成されていたこともあり、よりインターナショナルな雰囲気なかで活気にあふれる展開となった。主な訪問先での活動の様子を紹介する。

ヨンを行った。カザフスタンやキルギスタンなど、日本ではあまりなじみのない国々の地理や歴史、食べ物などの紹介に、聖光学院の生徒たちは興味津々。なかでも伝統楽器の演奏を披露したカザフスタンの女子高生には、その美しい音色に全員、拍手喝さいだった。デイスカッションの時間では、地球レベルの問題になっている環境のほか、メディアや宇宙などのテーマについてそれぞれの班で話し合った。

■聖光学院中高を訪問

藤嶋昭先生による特別講義

11月8日、気持ちの良い秋晴れのもと、横浜の聖光学院中学校高等学校を訪問した。7班に分かれての自己紹介の後、各国の高校生は、自分たちの国を紹介するプレゼンテーシ

午後には、東京理科大学名誉教授の藤嶋昭氏による特別講義を聖光学院の生徒たちとともに受講した。藤嶋氏は「世界を愛する技術」とまでいわれた光触媒の原理や研究の経緯と成果、そして応用事例についてわかりやすく説明。「光触媒は地球をきれいにする技術、そしてウイルス除去にも効果がある」と語る藤嶋氏に、海外高校生たちは次々と手をあげ、生活発に質問を浴びせていた。

■駐日ペルー大使を表敬訪問



藤嶋氏(前列中央)と記念撮影(聖光学院中高にて)



駐日ペルー大使を表敬するペルーの高校生

11月9日、ペルーの高校生3人と引率者2名は、駐日ペルー大使館を訪問して、ロベルト・セリナリオ大使を表敬した。日本の高校生との交流や、光触媒についての講義などについて目を輝かせながら報告する高校生たち。大使は「日本ではスマートシティ構想、大阪EXPOなど、社会と科学技術を組み合わせて未来都市を築いていくというコンセプトに基づいた計画が走り出している。この中に、世界の若者たちが世界的な問題について話し合い、解決策を一緒に考えていくという取り組みも含まれているので、是非、皆さんに参加して欲しい」と優しく励ました。

■筑波大学とJAXA筑波宇宙センター訪問

来日5日目の11月10日午前、一行は筑波大学計算科学研究



現在稼働中のスパコンの前で(筑波大学にて)



訓練施設の模型を見学(JAXAにて)



鈴木孝義副学長



松本 文明動態学研究所所長



沈 異分野基礎科学研究所所長

センター(CCS)を訪問し、現在稼働中のスパコンCygnusを見学した。高校生たちはスパコンを目の当たりにしたのは初めてとあって、計算機の内部の様子までも熱心に観察していた。スパコン見学の後は、筑波大学で学んでいるタイやインド、カザフスタンの留学生たちの案内のもと、紅葉に彩られたキャンパス散策を楽しんだ。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センターでは、「きぼう」運用管制室を見学したほか、宇宙飛行士養成エリアで、基礎訓練を行う閉鎖環境適応や低圧環境適応などの設備を見学しながら、宇宙飛行士に課せられたミッション達成の厳しさを学ぶなど、宇宙開発の最前線を体験することができた。

## オンライン大学訪問 岡山大学

科学技術振興機構(JST)は11月19日、岡山大学との共催により「オンライン大学訪問」を開催した。今年度6回目の開催となる。歓迎挨拶で鈴木孝義副学長は、晴れの国、岡山や岡山大学で学ぶメリット等を紹介。続いて稲森岳央グローバル人材育成院准教授からはキャンパスや学部の概要、主な研究などに加え附属病院など、さらに海外からの留学生のサポート体制についての具体的な説明があった。次いで2017年に新設された「Global Discovery Program(GDP)」の紹介では、GONG Yanyuan 同プログラム准教授から、GDPは世界中から集まる留学生たちと日本人学生が英語を共通言語として一緒に学ぶ国際プログラムで、約30カ国・地域からの学生が学んでいるとの説明があった。

オンライン大学訪問で好評のラボツアーは、まず松本直子文明動態学研究所長/教授が講義を行った。松本教授は同大の考古資料展示室から、岡山県内をはじめとして各地から出土した一級の展示品を前に、縄文・弥生時代の女性の立場や争いの変遷について語ってくれた。次は沈建仁異分野基礎科学研究所長/教授が講義。植物の光合成反応で水を分解し、酸素をつくるメカニズムについての解説があり、その後、実際の研究室内を案内してくれた。

■修了式  
帰国前日の11月11日、日本科学未来館で修了式が実施された。修了式にはビクター・アデルバイ駐日パラオ共和国大使をはじめ、各国大使館関係者や外務省、文部科学省幹部も来賓として出席。各国代表の高校生や学部メンバーでは、感謝の言葉とともに、「多国籍の仲間と一緒に、言葉の壁を超えて意見交換をしたことはとても有意義だった」「このプログラムによる知識や経験のおかげで、私の進むべき道に答えが出た」「若い世代の代表として、科学技術によって世界を良い方向に変えていくために進んでいきたい」など、印象に残るメッセージを残してくれた。

さらに、日本学生支援機構(JASSO)から、日本で学ぶための基礎知識の紹介があり、続いて岡山大学で学ぶ3人の留学生(学部生/フリーピン、修士コース/中国、博士コース/中国)からプレゼンテーションが行われた。岡山大学を選んだ理由としては「多様性がある、環境がよい、言葉や経済面でのサポートがしっかりしている、言葉や経済面での比べて物価が安い」などがあり、3人とも「言葉の壁」とのことだった。また、将来の進路としては、「企業で働きたい」「研究を続けたい」と様々であったが、これからも「日本に滞在したい」という点では3人とも一致していた。

このイベントの収録動画は、「オンライン大学訪問」特設ページのアーカイブにて近日公開の予定。

<オンライン大学訪問>

URL: <https://ssp.jst.go.jp/en/jst/online/>